

環境・気候変動対策無償資金協力（ITTO 連携） 「コートジボワールにおけるコミュニティ参加型森林回復計画」

1 概要

- （１）供与額：１．８３億円
- （２）支援内容：コートジボワールにおける、アグロフォレストリーを導入した劣化森林の修復・再生及びそれにかかる苗木生産・供給促進
- （３）実施機関：コートジボワール環境・水・森林省（MINEEF）、森林開発庁（SODEFOR）、国際熱帯木材機関（ITTO）（実施管理）
- （４）実施予定期間 ２０１３年６月（予定）～２０１７年６月（４年間）

2 背景

- （１）コートジボワールでは、かつては国土の６０％程度を豊かな半落葉広葉樹林（乾季に上部が落葉）や常緑広葉樹林等が覆っていたが、１９６０～１９７０年代の経済成長と農業開発により森林が急速に減少し、森林率は２０１０年には３２％まで低下している。現存する約１千万ヘクタールの森林についても、１９６０年代から過剰な商業伐採と近年の違法伐採、山火事等により荒廃が著しく、その９割以上が劣化した天然林や未成熟な二次林となっている。
- （２）同国では、１９６０年代から、森林関連法制と森林管理体制の整備、保安林・保護林の指定、森林保全計画の策定、造林技術の開発と導入が進められてきたが、現場段階での取組は十分ではなく、森林の劣化に歯止めがかからなかった。また、２００２年以降は、国家を二分する混乱の勃発により現場での取組みが大きく阻害され、これにより発生した国内避難民の森林地域への侵入に伴う森林の過剰利用により、劣化した森林の荒廃が更に進んでいる。
- （３）また、同国では、森林に関連する生物が１２，０００種以上確認され、豊かな生物多様性を有するが、森林劣化の影響を受け、これらの動植物の中には、国際自然保護連合（IUCN）から絶滅のおそれのある生物に指定されるものも生じている。

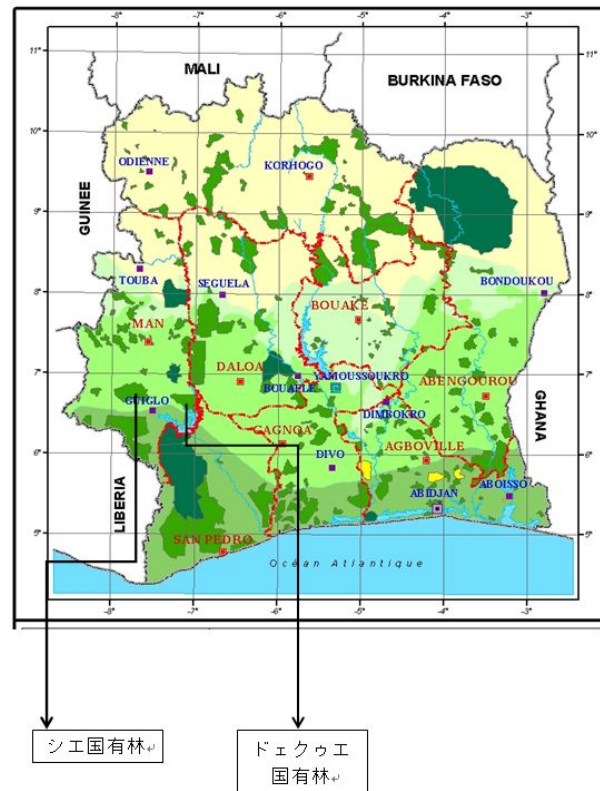
3 効果

- （１）国内避難民の侵入に伴う森林の過剰利用により劣化した森林（２，０００ヘクタール：東京ドーム４３０個分）の修復と再生が図られる。同時に、１４万ヘクタールの森林の更なる劣化が抑制される。
- （２）劣化森林の修復、再生のための技術や経験が森林開発庁（SODEFOR）等の担当部に蓄積され、劣化森林対策及び持続可能な森林経営が全国的に展開される。
- （３）劣化森林の修復・再生により、コートジボワール内における生物多様性保全・気候変動対策（森林吸収源対策）に貢献できる。
- （４）当該地域の劣化森林の修復・再生にアグロフォレストリーを導入することで、国内避難民を含む地域住民、約３４，０００名の生活の向上につながる。
- （５）その結果、内戦後の復興期における地域社会の安定に貢献できる。

4 外交的意義

- (1) 我が国は、コートジボワール政府が優先的に取り組む国家の再建・復興を支援することを基本方針としている。同国の「貧困削減戦略文書（PRSP）」でも、同国における環境保全は優先事項の1つとして挙げられており、本計画は同国の優先事項に合致しているほか、本年6月に我が国で開催されるTICADVを踏まえた案件として有意義。
- (2) 本プロジェクトは、本年6月に開催されるTICADVで発表を予定しているイニシアチブの1つ「TREES (Total Approach for REDD+, Ecosystem Conservation and Sustainable Development)」イニシアチブ達成のための措置に該当し、TICADプロセスの下で実施される案件として位置づけられる。

【対象国有林位置図】



ドエクウエ国有林にある国内避難民キャンプ
(背後は侵食されつつある森林)



シエ国有林にある国内避難民キャンプ(森林を
伐採し、居住地としている)